

私達仙台二高の1年生たちは7月3・4日に企業大学訪問及び東京大学見学のため、東京に行きました。たったの2日という期間でしたがその短い期間のなかでも、とても充実した活動を送ることができました。

東京に着いてまず最初に私達はディレクトフォース・笹川平和財団共催の夏季プログラムに参加しました。

まず最初に IEA(International Energy Agency:国際エネルギー機関)の元事務局長を務めていらっしやった、田中伸男さんの講演を聞きました。田中さんは世界のトップとも言える国際機関に勤めていらっしやっただけあり、聞いていて飽きない話ばかりでした。二高でもたまに講演はあり、その度に様々な話を聞きますが、田中さんの講演が一番聞きやすかったです。世界でトップクラスの方々の講演はこれくらいなのかと、非常

に良い刺激を受けました。話は主に「エネルギーの国際的な問題」や、「現代に生きる私達がエネルギー問題にどのように付き合っていくか」ということでした。後者については、今10代である我々に突きつけられた最も重要な問題であり、最も難しい問題であると思います。これからの地球を支えていくのは自分たちだ、という断固たる決意を今の若者たち全員が持っていかなければいけないと強く痛感させられました。

また、笹川平和財団の方々とのグループディスカッションでも、ためになる話を数多く伺いました。

最初に話を伺った田部揆一郎さんは父の転勤でアメリカで生活した経験をお持ちでした。田部さんは外国の人と話をするならば、通訳を介してではなく外国語で話した方が良いとおっしゃっていました。なぜかという文化の違いがあるからだということでした。また海外で成功するには、1.外国の文化に柔軟に対応する。2.自分の意見を押し付けずに対話の形で話し、相手の言い分をよく聞き理解する 3.外国では仕事が大変なので健康な身体を作る。4.外国語をかなり勉強する。5.人柄が大切なので、立派で尊敬される人になる。これらのことが大切だともおっしゃっていました。様々な人に頼りにされる存在になるためにも様々な知識をつけ、教養を高めたいと感じました。さらに個人的に英語の勉強法について伺ったところ、海外で本格的に使うには英語で書かれたものを読めばよいという助言を頂戴したので、学校の多読を有効活用したいと思いました。今まで不透明だった目標も、具体的なものが見えてくるとやる気が湧いてくるものだなあと感じました。

次に話を伺った村上悠平さんは法学系の研究者で、研究者になるための姿勢を教えて下さった。研究者は未知のことを研究、発見する職業であり、答えは誰も教えてくれない。だから、未知のことに挑む覚悟が必要であり、またそれが楽しみであるとおっしゃっていました。また、自分なりにシステムマテ

ニックに考えていける枠組みを持つことが大切だとおっしゃっていました。大学などで自分の研究を発表する機会でも、それがあると、自分の伝えたいことを論理的に相手に伝えることができるらしいです。

私はこの前まで、将来をより良いものにするための指針を模索していたので、今回の体験は自分にとってとても大きなものになりました。これからは将来一生向き合うテーマを見つけようと思いました。

午後は企業大学訪問で国立天文台三鷹キャンパスに行きました。将来私は宇宙に関わる研究をしたいと考えているので、今回の訪問はとても有意義なものになりました。

着いてから、まず最初に一般の人には公開していない重力波研究棟に行きました。極々微小な重力波を観測するためにこんなにも巨大な機械を使うのかと、人間が手を伸ばそうとしている宇宙のスケールの大きさを感じるようでした。

また、職員の方々が私たちの質問にとっても丁寧に答えていただき、さらにわたしたちは高校生の今何をすればいいか、天文学を学ぶにはこの本を読むと良い、などといった様々なためになる話もいただきました。

この訪問を通して生命誕生の起源、宇宙の果て、宇宙誕生の前の「無」とは何か、ダークエネルギーとは何か、など現在解明されていない様々なことについて自分が解明したい、というワクワクした気持ちが膨らみました。自分は宇宙の研究をしたいと強く感じました。

品川プリンスホテルに戻ってからは、二高の OB・OG の方々との懇談会がありました。自分たちと年齢が近いせいかととても話しやすく、二高卒であるため高校時代の話をも自分の今の高校生活と照らし合わせながら聞くことができました。東大に行っている先輩方は話し方からもただならぬ雰囲気を感じられ、具体的な勉強法や高校生活について、事細かに聞くことができました。同じ二高の校舎で生活していただけあり、話に共感できる部分が多く、不安だった勉強法についても明確な方向性が定まり、それに向かって早く勉強したい、という気持ちまで生まれ、先輩方とお話しすることができて本当に良かったと思いました。

この懇談会を通じて私は、曲げない信念を作ろうと思いました。そして、ロングスパンでの計画を立て、絶対に自分の目標を成し遂げようと思いました。

8月4日は東大のオープンキャンパスに行きました。私は主に理学部の体験講義を受けました。今回の自分なりのオープンキャンパスに向けてのテーマは「東大の魅力を肌で感じる」というものだったので、内容は理解できなくてもたくさん講義を受けてやろうと思っていました。結局5つ講義を受けました。理解できないだろうと思っていた授業も熟考すれば理解できるものも多かったです。講義の中でも特に印象に残っているものは、ニュートリノ振動研究についてです。ニュートリノは特殊な粒子で、ニュートリノと反ニュートリノは物質と反物質という対称性を破るものなのではないかということが理解

できてきました。これはニュートリノが宇宙の物質形成の鍵になる事を示しています。これを聞いたとき私は今まで表面的にしか理解していなかった学問が一気に広がっていくことを感じました。そして同時に、こんな面白い学問を学ばずにはいられないと思いました。また、今までのように受身の姿勢では絶対に本当の学問の醍醐味を味わえないと痛感しました。東大に行った人を見ると、学びに対して、非常に能動的だと感じました。東大は学びは最良の環境だと思いました。

とても東大は素晴らしいところだと思います。そして、今から頑張れば、手が届かないわけではないと思います。私はまだまだ実力は見合っていませんが、もうできる限り頑張ってみようと思いました。この2日間でこんなにたくさんのことを学び、色々なことを考え、色々なことを感じました。あとは計画を立てて実行するだけです。

今回の体験は私に非常に大きな影響を与えてくれました。このように素晴らしいものを計画して下さった先生方や訪問を受け入れてくれた企業の方々に感謝してもしきれません。この体験をこれからの高校生活、さらには将来にも生かしていけるよう日々精進したいです。